

MCS税理士法人立川事務所通信

9月号 VOL. 097

MCS税理士法人立川事務所

〒190-0023

立川市柴崎町 3-11-4 千代田生命立川ビル 4 階

電話：042-595-7671 FAX：042-528-6949

<http://www.mcs-office.jp> mail.info@mcs-office.jp

相続専用 HP：<http://www.souzokushien110.com/>



えんまん
遺言相続支援センター

解剖学者の養老孟司氏とノンフィクション作家の高橋秀実氏の対談に「いくら理不尽でも、妻から言われたことに夫が口ごたえすると大変なことになる。結局、聞き流すほうがいい」とありました。決めのセリフは「奥様のおっしゃる通りでございます」。人間をよく知る二人の専門家の意見には説得力がありますね（笑）。

【研究開発税制を活用して競争力の強化を！】

研究開発投資を増やして企業競争力を高めることなどを目的に、研究開発税制が見直しされました。改正前は「総額型」「増加型」「高水準型」「オープンイノベーション型」の4つに分かれていましたが、その中の「増加型」と「高水準型」は平成二十八年度末までの期限措置でした。改正後は「増加型」が「総額型」に組み込まれ、「高水準型」は適用期限が2年間延長され、「総額型」「高水準型」「オープンイノベーション型」の3つになりました。



「総額型」の税額控除率は、試験研究費の増減に応じて6～14%（中小法人は12～17%）に拡充されました。控除限度額も一定の要件を満たした場合、従来の法人税額の25%に0～10%の上乗せが可能になりましたが、高水準型との選択制となります。ただしどちらの上乗せも2年間の期限措置となります（税額控除率については一定率以上）。また「オープンイノベーション型」は手続きの見直しにより使い勝手の向上が図られています。近年では、IoTやビッグデータ、人工知能などを活用した「第4次産業革命」が進展しています。これらの技術を活用する新たなビジネス開発を後押しするために、これまでの製造業による「モノ作りの研究開発」に加えて、ビッグデータなどを活用した第4次産業革命型の「サービスの開発」が試験研究費の定義に追加されました。

【未来のノートは「アナログとデジタルのいいとこ取り」】



濡れたタオルで拭いて文字を消し、半永久的に繰り返し使えるノートが米国生まれの「Everlast (エバーラスト)」です。特殊な紙は業界の専門家と共同開発した合成ポリエステルで、スマートフォン専用アプリを使えば自動で読み取り範囲を選択してノート下部の7つの魔法のアイコンによるファイリングで簡単にデジタルノートが完成します。最高の書き心地の後は瞬時にクラウド保存してキレイに消し去る。1冊で大学ノート数百冊分の楽しみが続く未来のノートです。

【今月の教えてキーワード：ESG】

Environment（環境）・Social（社会）・Governance（企業統治）の頭文字を取ったもので、これらの各分野に適切に対応することが経済の長期的な成長につながり、結果的に持続可能な社会を作ることになるという考え方。近年、世界的に広まりつつあり、ESGの視点を企業統治に取り入れる企業も増えている。機関投資家が、従来の財務情報だけでなくESGも考慮しながら投資先企業を判断する手法は「ESG投資」と呼ばれている。

【聞くときは心を込めて】

商売の極意を尋ねられて「聞くこと」と答えたのは、ベテラン経営者のT氏です。

極意のきっかけは、その昔、夫婦で泊まった温泉宿とのこと。

その宿は人里離れた場所に一軒だけぼつんとある民家のような旅館で、予約の電話をしたときに部屋にテレビがないと聞かされたときは「夫婦二人で間が持つだろうか」と心配になったそうです。

ところが行ってみればなんてことなく、遠くから聞こえるホトトギスの声、山里を吹き抜ける風の音、その風が木々を揺らせばサワサワと葉音が鳴り、夜は夜で耳を澄ませば「静けさ」という音が聞こえてくるようで、今までに



なくらい心休まるひとときだったといいます。何よりの発見は「奥さんの声」だったそうです。普段はテレビに奪われていた耳を奥さんに向けたことで「この人はこんな声だったのか」と改めてしみじみしたのだとか。そのせいか、いつもなら何となく聞き流す奥さんの話を、その夜は耳を傾ける気持ちで聞いたそうです。

「そしたら不思議なんだけど奥さんの表情がやわらかくなって。そうなるこっちも笑顔になるから自然と会話が弾んでね。翌朝には恥ずかしながら手をつないで朝の散歩を楽しんだよ」。散歩の途中、いつもより優しい声で話している自分に気付いたT氏は、いつもより晴れやかな笑顔を向ける奥さんを見て思ったそうです。自分は今までどんな態度でお客さまの話を聞いてきただろう。どんな風にお客さまに話し掛けてきただろう――。

詩人の山崎佳代子氏はかつて、講演でこんな話をされました。

「声は人の魂を結びつける。声を出すときはみんなに届くように出し、声を聴くときは心を込めて聴く。この二つが欠けると社会はほころびる」。

伝えたいことがお客さまに届くように話し、心を込めてお客さまの話に耳を傾ける。この二つが欠けると商売もほころびてくるかもしれません。話したり聞いたりとは毎日のことです。どんな態度で、どんな心持ちで行うか、それが大事なのではないのでしょうか。

私達の財産、それは
私達の頭の中にあります

今を生きる！

先人の言葉

オーストリアの音楽家であるモーツァルトの言葉。金品はない。使えば使うほど増えて後世にも残せる財産、それは皆、絶えず携帯している。

【マンガでよくわかる エッセンシャル思考】

Apple、Googleなどの有名企業でアドバイザーを務める著者のベストセラーをコミック化。自分の力を大切な一点に集中して問題を解決する方法が具体的に書かれています。生き方がシンプルになる指南書です。

